

令和4年度 第2回 荒尾市地域公共交通活性化協議会 議事録要旨

日時：令和4年10月7日（金）午後2時00分～3時30分

場所：ゆめタウンシティモール シティホール

出席者：荒尾市地域公共交通活性化協議会委員 28名（内代理出席者 4名）

オブザーバー 2名

【事務局】

（総務部総合政策課）

石川部長 末永課長、林田政策推進室長、坂口、森

1. 開会

末永課長が、開会を宣言した。

2. 会長あいさつ

田上副会長が挨拶を行った。

前回協議会では本年度事業案等承認いただいたほか、新計画策定についてご承認頂いたところ。今回は、地域公共交通計画網形成計画の実施事業の評価、新計画策定にあたっての調査結果の報告を行う。委員の皆様からは意見を頂戴する時間を設けている。ぜひ忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

6. 議事

（1）荒尾市地域公共交通網形成計画（H29年度策定）の総括について

事務局（坂口）が、資料1-1、1-2及び参考資料①②に基づき、荒尾市地域公共交通網形成計画（H29年度策定）の総括について説明を行った。

《主な質問・意見など》

- ・上屋について、結節点など主要なバス停については、行政が主体となって整備を済める必要があるのではないか。ハード面の整備は公共交通支援の見える化となり効果が高い。
- ・おもやいタクシーが運行開始し、乗合タクシーの利用者が減ったと説明があったが、それは単におもやいタクシーのほうが使いやすいということである。また一方で、地域のおもやいタクシーを使わない方に理由を聞いたところ、予約電話をするのが面倒という声が多かった。
→予約の手間についてはご意見を頂戴している。おもやいタクシーについては、スマートフォンアプリや電話で簡単に予約可能であることを、周知しているが、今後も引き続き地域に訪れて丁寧に説明してまいりたい。
(事務局)

- - ・資料 1-1 の目標については、令和 4 年度上半期の状況を教えてほしい。
 - 明確な数字は現時点では把握していないが、人流は戻りつつあり、公共交通利用者数は昨年度比で回復しつつある。(事務局)
 - - ・令和 4 年度の目標値が平成 29 年度と比較してどれも高くなっている。コロナ禍から人流が戻りつつあるとはいっても完全には戻らないため、目標設定について考慮する必要があるのではないか。
 - 現計画の目標値については、計画策定当時コロナの影響を考慮していない目標設定である。ご指摘のとおり、コロナ禍以前の状況に戻りにくいと思慮している。策定を進めている新計画の中で示したい。(事務局)
 - - ・資料 1-1 の総括について、車社会になっている中で、コロナ禍があったとしても、人口減少についての影響が大きいと思う。高校についても私立高校は通学時のスクールバスがある。多くの高校生がスクールバスに乗っている姿を見かける。時間が決まっていて、それに乗れば行けるという点がスクールバスの利点。公共交通についてもその視点を持つべき。
 - 人口減少の中で、交通をいかに維持するかという視点で検討が必要と考えている。スクールバスについては、市外の私立高校等が運行しているのは承知している。運賃面などで若い方の利用が多くなるように検討を進めたいと考えている。(事務局)
 - - ・荒尾駅の通勤通学の状況について、家族の送迎の様子が多く見受けられる。時間と場所について、うまく移動とマッチすると大きく状況が変わるのではないか。
- 会長
- ・より多くの選択肢があること、いかに持続的に提供できるかが要だと思っている。その時のためにも、今どんな対策を行うのか、皆で協議することが重要である。

(2) 公共交通に関する各調査の結果について

事務局（森）が、資料2及び参考資料に基づき、公共交通に関する各調査の結果について説明を行った。

(3) 荒尾市地域公共交通の課題について

事務局（林田）が、資料3に基づき、荒尾市地域公共交通の課題について説明を行った。

《主な質問・意見など》

- - ・産交バス乗降調査について、70歳以上の高齢者は福祉特別乗車証が利用できるが、便利な制度であるものの100円運賃は全国的にも安すぎ、事業者負担も大きいのではないかと。また、ICカードではないため、乗降データが取れない。現金払いから転換する必要があるのではないかと。
 - ・荒尾市はおもやいタクシーなど、先進的な取組みをされているため、次のステップに取り組むべきである。特に横の連携が重要である。
 - ・おもやいタクシーについては、おもやいタクシーだけでなく一連のサービスとして捉えるべきである。
 - ・おもやいタクシー混雑緩和の観点から増車の検討が必要である。

- - ・保護者の送迎が多いなか、送迎が無くとも移動できる環境が必要である。
- - ・バスやタクシーによる移動が少ないと聞く。高齢者の買い物や通院の足は重要と思う。以前は、シティモールへの買い物利用が多かったが、近年はドラッグコスモスへの買い物が多くなっている。小商圈にマッチしている店舗運営と聞いている。そのようなことも踏まえた議論が重要ではないかと。
- - ・視覚障がい者支援に携わっているが、外出する際にはヘルパーの同伴が必要である。公共交通の運賃も二人分の負担が必要である。このような点も考慮してもらえたらと思っている。
- - ・大和区在住であり、公共交通の利便性が高い地域である。一方平井・府本地区の方などは不便であると聞く。運転免許証返納もできないと聞く。おもやいタクシーも使いたいが使いが分からないと聞いている。
- 会長
- - ・おもやいタクシーの使い方についてPRに努めたいと思っている。
 - ・八幡地区を代表して発言する。八幡地区の利用者は多いと思っているが、全地域でそれほど利用者が多くない中で相対的に多い方ということである。八幡地区からは市民病院やシティモールまでの利用が多い。上赤田や下赤田の一部などは交通不便地域である。年配者と話をすると、おもやいタクシーの予約制度面が難しく、心理的なハードルが高いと感じている。おもやいタクシーの最大の長所はドアツードアであるが、乗るまでのハードルが高い。高齢者でも分かる広報資料を作ってほしい。また、八幡地区から長洲駅行く方が多い。大牟田や長洲など、隣接する市町とおもやい

タクシーの面で連携する方法があれば、まだまだおもやいタクシーの利用は増えるのではないかと。料金については、説明したら理解される。ドアツードアなら利便性が高く受容されているようである。おもやいタクシーの制度としてはとてもいい制度である。免許返納時は積極的に使いたいと個人的には思っている。

- 事務局
 - ・府本地区も状況は同じである。おもやいタクシーを使い始めた方は、便利に使っている。ただ、ピーク時に待ち時間が長いという問題もある。ピーク時を考慮した制度設計が必要である。現実的に免許返納する必要を感じるが、返納する際に、どう移動するかを考えなければならない。良い方向に議論が進んでいるが、いかに使いやすい制度とするか、簡単に使える制度とするかである。高齢者の中には1回、2回の説明では理解されない方もいる。その点も含めて考えてもらいたい。
 - ・おもやいタクシーについては、モビリティマネジメントの一環で、公民館に伺ってお一人おひとりと向き合って説明を行っている。今年度も伺いたいと思っている。社会福祉協議会とも共に進めていきたい。
- - ・平井地区在住である。おもやいタクシーと乗合タクシーが運行されている。スマートフォンや電話など、発信がデジタルである。高齢化が進んでおり、デジタル対応が困難であり、アナログが望ましい。企画される方は若い方であるが、高齢者は新技術についていけない。
 - ・個人的に、後期高齢者になり、夜には車に乗らない、車に乗る回数を減らすようにしている。通院ついでに買い物をする等、用事を合わせ、なるべく車に乗らないようにしている。
 - ・西鉄バスが庄山から大牟田まで運行している。有明高専にも来ている。高専まで歩いて西鉄バスに乗っている方もいる。荒尾市内は荒尾大牟田間の公共交通の路線はあるが、それを結ぶ市内の路線少ない。熊本県内にもう少し西鉄バスが入ってくると良いと思っている。グリーンランド線は市内に入ってきているが、乗客が少ないとバスは減る。
- 会長
 - ・万田地区に在住している。地域の方からの意見であるが、荒尾駅はホームにエレベーターが無く、足が悪いのでタクシーで大牟田まで行って大牟田駅を利用しているとのこと。荒尾駅に早くエレベーターが欲しい。
 - ・駅周辺含めて、利便性を高める取組みを考えている。様々な施策を組み合わせさせて利便性を高めたいと思っている。
- - ・おもやいタクシーについて、乗りやすい形を考えていきたい。乗合タクシーについては、平井地区と府本地区で運行しており、定着している。おもやいタクシーは、タクシー車両をシェアするという考えで、電気自動車を利用して、AIを使って運行している。高齢者にとって難しいという見方があるかと思うが、電話でも予約受付を行っている。運賃も受付時に電話で案内し、一度登録されたら電話番号で受付可能である。最近、ピーク時間帯は20-30分待ってもらおう状況も出てきている。この状況を緩和するために、車両増車なども考えたい。おもやいタクシーと鉄道との接

続も問題と思っている。乗合運行であるため、定時性確保は難しいが、対応を考える必要があると思っている。各交通事業者の意見をきいてもらえたらと思っている。

- • 荒尾市においては、全域デマンド交通や路線バス等が運行され、恵まれた地域である。利用に際して足かせになっている部分は利用者の声を聞いてもらいたい。また、法的な部分はぜひ相談してほしい。
 - • 免許返納数は増加している。荒尾警察署管内は多い方と認識している。返納のみならず、先の事を考えることが必要と考えている。今回の議論の様に、公共交通の活用が重要である。アナログとデジタルを折衷してもらえると、返納者増、交通の安全につながると個人的に考えている。
- 会長 • 次回本日の意見を踏まえて新しい計画に盛り込んでいきたい。

次回令和4年12月上旬予定

6. 閉会

末永課長が、閉会を宣言した。